

平成26年度 理窓会代議員総会 会長所信表明

理窓会会長 石神一郎(45工・建)

理窓会の目的と役割

理窓会の説明から始めたいと思います。最初に、理窓会の目的を再確認しておきます。三本の柱である「大学発展への応援」、「卒業生の親睦・交流」、「社会への貢献」はよく耳にしていると思います。これは同窓会設立時に先輩方が最初に作ったコンセプトです。それが125年、脈々と流れている。これが極めて重要な意味を持っているのだと考えています。

次に大切なことは、理窓会の価値を私たち卒業生が認識するという事です。理窓会の大きな価値の1つは、18万人の卒業生がいるということです。ただそこに存在しているのではなく、理窓会というネットワークができていくことが大切なのです。このネットワークが卒業生に楽しみだとか、仕事上の、あるいは人生の利益などをもたらすことになるのです。

そして、卒業生の活躍が大学の評価を高め、大学の発展と評価が、卒業生の評価を高めます。理科大においてこの好循環を加速させていくことが理窓会の重要な役割だと考えています。

理窓会の当面の課題と施策

大学で2月にグループウェアメールを各卒業生に配布していただきました。このメールは、優れた機能を持っていると認識しています。これによって、理窓会の活動、あるいは大学と卒業生の関係、理窓会と卒業生の関係、理窓会と大学の関係が大きく変わり、大きく発展する可能性があると考えています。

このメールアドレスが最も重要なのですが、これが配布されるとこのメールは一生涯、変わりません。住所が変わったとき、その変更、登録を忘れると、理窓会や大学との関係が途切れてしまいます。しかし、このメールアドレスを持ってい



る限り一生涯、大学とも理窓会とも、そして卒業生同士もつながることができます。そして、当然、世界中どこにいてもつながります。どこに住もうと、外国で仕事をしていようともいつでもつながっています。その意味では大変な機能を持っています。また、支部活動などの連絡にも使えて利用価値が非常に高い、大学や理窓会からのメールを読むだけでも十分価値があります。ぜひメールアドレス・パスワードを登録してください。

大学では、ソーシャルネットワークを活用して大きなコミュニティを形成できるように、Facebook、TwitterやYouTubeを取り入れています。そこで、理窓会でもFacebook、YouTubeを取り入れました。これにメールが加わって、ホームページと連動することにより、デジタルな関係が出来てきます。これも大きな力を持っていると考えられるので、ぜひ推進していきたいと考えています。

次に、卒業生支援が大切と考え、その基礎として支部活動の活性化支援を行います。そして、補助金の支給ですが、徐々に拡充していければと考えています。

また、在校生や新卒業生に対する支援も大切です。特に、キャリア教育への支援として講師を派遣しています。就職率のよい大学、各界の企業からのぞまれる大学は、人気が高く、学生も大変能力が高いという評価を受けることになります。しっかりと応援をしていきます。就職活動への支援として、企業セミナーなどを開催しています。これらは、教育会やビジネス同友会が中心になって実施していますが、引き続き、拡充をしながら進めていきます。

さて、大学維持資金二期への支援ですが、母校愛を育て、維持会とタイアップしながら協力していかなければならないと考えています。

さらにはこうよう会との連携です。こうよう会是一般の学生の保護者の会ですが、しっかりと連携

を結び、それぞれの主催行事への積極的な相互参加を促していきたいと思えます。各支部では支部長や役員がこうよう会に参加しています。こうよう会からは支部総会などに支部長、副支部長などが参加していただけて、交流が活発化していますが、さらに活発化する必要があります。最近では職業などが非常に複雑になっているので、保護者の方々は、そうしたいろいろな情報についても知りたいという希望を持っているようです。そこで、理窓会が積極的に情報提供していきたいと考えています。

こうした施策を実際に実行していくには、原資が必要となります。そのためには、会費納入率の向上を図ることが大切です。15年会費を払っていただいている方を除けば、毎年の会費納入は、卒業生の2～3%となっています。卒業生にいろいろな事業に参加していただければ、経費がかかることを理解していただけます。理窓会として、卒業生の参加を促していきたいと思えます。卒業時に全員から15年会費を納入していただいています。このことについても学生及び保護者の方々の理解を深めていくことが大切だと考えています。

長期的な課題と施策

昔からの課題として住所把握率の向上があります。簡単には解決できない課題で、住所判明率は60%しかありません。毎年7000名くらいの住所が変わり、2000名程度住所不明者になります。新しく3500名の卒業生の住所が加わっても、住所把握率はそれほど増えていきません。これを70%くらいに増加させることを目標に掲げておかなければ、住所判明率は徐々に下がっていきます。理事長の掲げるエベレストと同じです。登ろうと思わなければ登れないのですから、目標として掲げておきます。

もう一つ、100年続いてきた小さなコミュニティ（皆さんが緊密に親密に、いろいろな関係で一緒に行動したりしていくためのコミュニティ）の形成を図りたいと考えています。たとえば、静岡支部は3地区に分かれていますし、神奈川支部も分かれています。一つに集めると20～30人、あるいは多くても50～60人なのですが、不思議なことにそれが3つに分けて

もやはり50～60人ずつ集まるのです。このように、1つの活動単位にはそれに適した規模があります。たくさんの人に参加していただくには、活動単位を増やすことが大切です。今後、地区会の増加を図っていきます。

そして、海外理窓会の増加です。国際競争力の向上、グローバルな教育を大学でも進めています。この観点から、海外に理窓会支部を設けて、協力しながら進めていくことも非常に大切だと考えています。他の大学では60カ所程度の海外支部がありますが、60カ所が一つのキーポイントになると考えています。現在理窓会では上海、シンガポール、北カリフォルニアの3カ所ですが、目標として将来、60カ所の海外支部を置くことを考えていきたい。

関連団体の増加も大切です。10年前に3団体だったものが現在は42団体になっていますが、理窓会とコミュニケーションが取れていない、つながっていないという現実があります。こうした団体と話を進めながら、関連団体を増やしていきたい。関連団体が増えることによって、全体の活動力が高まると考えています。

最後に

こうした施策を実行していくために、組織力を発揮する理窓会の運営をやっていますが、引き続き、理窓会の組織を拡充しながら進めたいと思えます。対応が必要な、新しい現象や事態が生じれば、それに応じた組織を作ります。目的が生まれ、責任者を配置し、人員を充実させて対処していく、これが理窓会の新しい形です。

理窓会もこれからいろいろな時代の変化に対応していかなければなりません。理科大の幹部は時代に大変敏感な方々です。我々も、しっかりと将来を見据えながら、一緒に歩めるようにしたいと考えています。これからの理窓会の運営を代議員の皆様にご協力いただくことをお願いいたします。所信表明といたします。

